

## 文化財デジタル画像形成に関する調査研究 (①企05-13-4/5)

### 目 的

脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。そこで文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。本調査研究では、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画などを対象とし、文化財研究に資するデジタル画像の形成方法、および、その応用のための手法（表示・出力）を開発し、広範な活用の方向性を研究することを目的とする。

### 成 果

#### 1. 文化財の調査・撮影など

個人所蔵黒田清輝作品（近赤外線撮影、カラー撮影（2014（平成26）年5月1日））

この他所内外からの依頼を受け、各種修復文化財や伝統保存修復技術、飯田市美術博物館にて菱田春草作「菊慈童」、熊本県立美術館にて永青文庫所蔵菱田春草作「落葉」「黒き猫」、東京国立近代美術館にて岸田劉生作「古屋君の肖像」「壺の上に林檎が載って在る」、平等院にて国宝扉絵、などの光学調査を実施した。

#### 2. 他機関との共同調査

ア) 奈良国立博物館と共同研究に関する研究協議会を開催（2014（平成26）年5月23日）

イ) 宮内庁三の丸尚蔵館（「春日権現験記絵巻」第7巻・第14巻の可視光線マルチショット撮影・赤外線撮影（上下両方向）・蛍光撮影による調査（2014（平成26）年5月27～30日））

#### 3. 成果の公表

これまでの調査研究成果のうち、奈良国立博物館との共同研究成果である大徳寺伝来五百羅漢図について報告書内に論考として公表したほか、下記のような様々な刊行物にて成果を公表した。

#### 4. 研究および開発

昨年度に引き続き、退色して判読不能となったいわゆる青焼コピーに対する撮影による簡便な復元手法の研究および開発を行った。

### 論文・報告書等

- ・城野誠治「「大徳寺伝来五百羅漢図」銘文の可視画像化について」『大徳寺伝来五百羅漢図』奈良国立博物館・東京文化財研究所編 pp.260-261 14.5
- ・『大徳寺伝来五百羅漢図』奈良国立博物館・東京文化財研究所編 14.5
- ・「普賢菩薩像」・「虚空蔵菩薩像」『日本国宝展』東京国立博物館 pp.70-74 14.10

### 研究組織

○小林公治、田中淳、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、小林達朗、皿井舞、安永拓世、城野誠治（以上、企画情報部）、早川泰弘（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）